資料2-2

生活環境影響調査報告（予測・評価）総括

■総括

本調査では、最終処分場の建設及び供用に伴う生活環境への影響について、現地調査結果、事業計画、気象条件、交通条件等を踏まえ、予測及び評価を行った。
予測は、粉じん、車両排ガス、騒音、振動等については既往の予測式や技術手法に基づき実施し、悪臭、水質及び地下水については、施設構造、浸出水処理計画、遮水工、地下水集排水設備及び維持管理計画等を踏まえて定性的に行った。
その結果、粉じん、排ガス、騒音及び振動はいずれも環境保全目標を満足し、施設の稼働及び廃棄物運搬車両の走行による周辺環境への影響は小さいと予測された。
また、悪臭については、準好気性埋立構造の採用、覆土実施等により、周辺集落への影響は小さいと考えられる。
水質については、浸出水を適切に処理し、基準を満足した上で放流する計画であることから、公共用水域への影響は小さいと評価される。
地下水についても、地形・地質、地下水位及び流向の状況、地下水集排水設備の設置等を踏まえると、地下水流動及び水位への影響は小さいと予測される。
以上より、本事業において計画している環境保全対策及び維持管理を適切に実施することにより、最終処分場の建設及び供用に伴う生活環境への影響は、総じて小さいものと評価される。

評価項目	予測地点	予測条件	予測結果	評価結果
1.1 大気質（粉じん）	・小田、小川吐、仮迫集落	・被覆施設がない ・予測地点に常に平均風速が吹いている ・バックホウ 1 台が稼働	・小田：0.04t/km^2/月 ・小川吐：0.03t/km^2/月 ・仮迫：0.00008t/km^2/月	生活環境の保全が必要な地域の指標値の 20t/km^2/月以下であり、影響は小さいと評価される。
1.2 大気質（NO_2,SPM）	・小川吐集落沿道	・廃棄物運搬車両 3 台/日 ・速度 50km/h ・現地気象条件	・NO_2 日平均予測濃度 0.00965ppm ・SPM 日平均予測濃度 0.0285mg/m^3	二酸化窒素（0.00965ppm＜0.04ppm）及び浮遊粒子状物質（0.0285mg/m³＜0.10mg/m³）は、ともに環境保全目標を満足し、影響は小さいと評価される。
1.3 騒音（環境騒音）	・最終処分場北東側 ・南東側敷地境界	・埋立機械（9 時～17 時）及び浸出水処理施設（24 時間）が稼働 ・屋内振動源は浸出水処理施設の曝気ブロアとし、浸出水処理施設の中央部に配置した。浸出水処理施設の屋根及び床はコンクリート、壁面は ALC 板とし、壁及び天井に厚さ 50mm のグラスウール吸音材貼付を想定した。	・最大 40dB（北東側昼間） ・37dB（南東側昼間）	騒音は、環境保全目標（朝夕 50dB 以下、昼間 55dB 以下、夜間 45dB 以下）を満足している。 このため、施設稼働による騒音の影響は小さいと評価される。
1.4 騒音（廃棄物運搬車両）	・小川吐集落沿道	・廃棄物運搬車両 3 台/日（往復 6 台/日） ・走行速度は、50km/h とした。 ・予測地点の高さは、地上 1.2 m	・騒音増加量 0.3dB ・予測結果 68dB	廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音は 68dB であり、環境保全目標 70dB 以下 を満足している。 このため、騒音による環境影響は小さいと評価される。

評価項目		予測地点	予測条件	予測結果	評価結果
1.5	振動 （環境振動）	・最終処分場北東側 ・南東側敷地境界	・埋立作業時間帯は 8 時～17 時、浸出水処理施設の稼働時間帯は 24 時間。	・埋立作業に伴い発生する振動 北東側敷地境界では 25dB、 南東側敷地境界では 7dB ・浸出水処理施設で発生する振動 北東側敷地境界では 17dB、 南東側敷地境界では 32dB	施設稼働に伴う振動は昼間 25～32dB（60dB 以下）、夜間 17～32dB（55dB 以下）であり、環境保全目標を満足している。 このため、振動による環境影響は小さいと評価される。
1.6	振動 （廃棄物運搬車両）	・小川吐集落沿道	・時期は、8 時から 19 時とした。 ・廃棄物運搬車両 3 台/日（往復 6 台/日） ・走行速度は 50km/h ・予測地点の高さは、地上 0m	・振動増加量 2dB ・予測結果 27dB	廃棄物運搬車両の走行に伴う振動は 27dB であり、環境保全目標（65dB、55dB 以下）を満足している。 このため、振動による環境影響は小さいと評価される。
1.7	悪臭	・事業予定地周辺	・準好気性埋立構造、覆土の実施 ・時期は、計画地の稼働が定常的な状態	・埋め立てる廃棄物は中間処理後の残渣が主体であり、強い悪臭を発生させる廃棄物を埋め立てない。 ・準好気性埋立構造、覆土を実施することから、周辺集落への悪臭影響は小さいと予測される。	廃棄物の存在・分解に伴う悪臭の影響については、埋立地では覆土を徹底して実施することにより、悪臭の発生を防止することから、施設内臭気が外部へ漏洩することは少なく、敷地境界における規制基準等を下回ると考えられる。このため、悪臭による環境影響は小さいと評価される。
1.8	河川水	・放流地点	・浸出水を適切に処理し放流 ・時期は、施設の稼働が定常的な状態	公共用水域への影響は小さいと予測される。 ・浸出水を適切に処理し、基準を満足し放流。 ・被覆型最終処分場の採用により、浸出水量及び水質不可の変動を抑制。 ・水質管理及びモニタリングにより、未処理水等の流出を防止。 ・遮水シートにより浸出水を隔離し、環境影響への低減を図る。	浸出水処理水は各種水質基準を遵守して放流される計画である。 このため、水質への影響は小さいと評価される。
1.9	地下水	・埋立地を含む周辺へ流動する地下水の範囲	・時期は渇水期	地下水流動及び水位への影響はないと予測される。 ・地下水は渇水期においても地形に沿って沢筋へ流下する。 ・供用後も地下水集排水設備により適切に排水される。	事業計画地周辺におけるボーリング調査結果、地下水の水位及び流向、事業計画地周辺の地下水利用状況等から、生活環境保全目標は満足すると予測された。 以上のことから、処理施設の設置に伴う地下水の水位の影響については、環境保全に係る基準又は目標との整合性は図られているものと評価する。